

# 平成28年度 第3回市政モニターアンケート集計結果

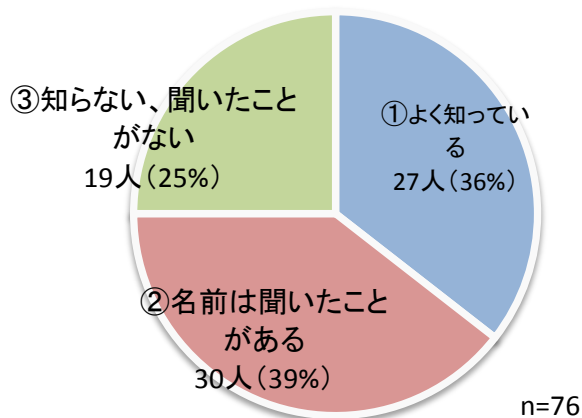
## 子どもの医療費助成に関するアンケート

○アンケート期間:平成28年12月22日～平成29年1月6日

○アンケート回答者数:76人(設問により、無回答もあり)

Q1 高島市では、子育て世代の経済的負担の軽減を図るため、「子どもの医療費助成」(福祉医療助成の【乳幼児】助成と【子ども医療】助成を合わせた呼び方)を行っています。

この制度についてご存知ですか。あてはまる番号1つに「○」をつけてください。※助成については参考資料をご覧ください。



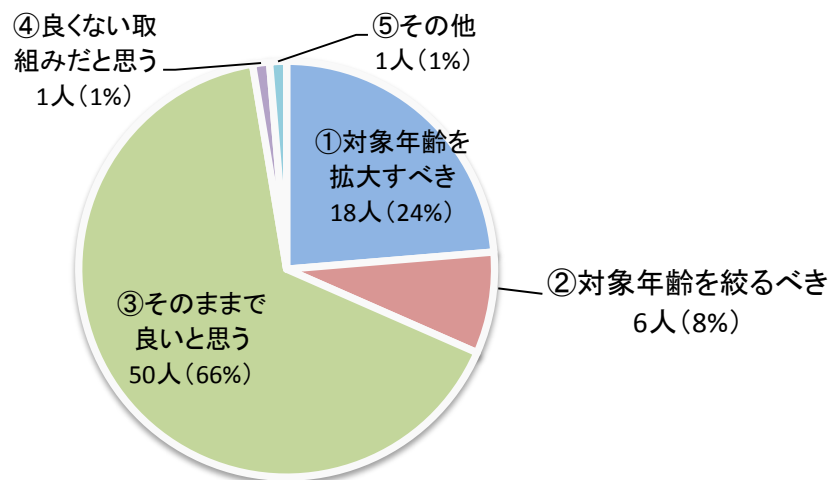
### 「子どもの医療費助成」とは...

0歳～15歳までのお子様を持つ、子育て世代の保護者の経済的負担の軽減を図ることで、保健福祉の向上を目指し、市町が独自で医療費の窓口負担分(2割～3割)を助成する制度です。

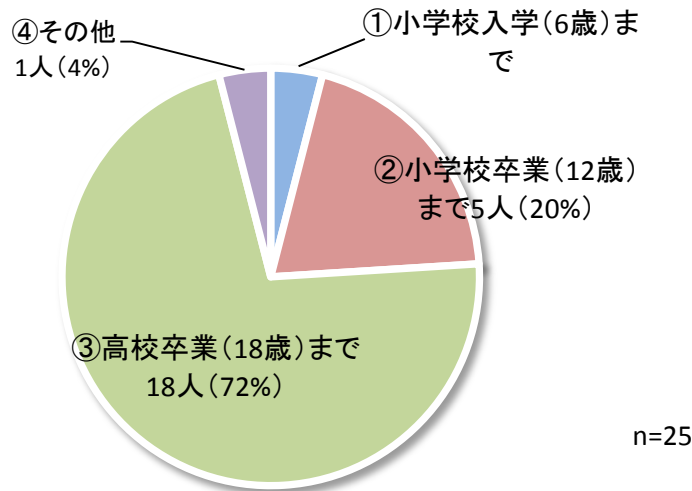
高島市は、中学生卒業までの医療費の窓口負担分※を全額市で負担しており、県内トップレベルの助成内容となっています。

※医療保険適用分のみ。

Q2 「子どもの医療費助成」制度は、中学生卒業(15歳)までの子どもに係る医療費の窓口負担分(医療保険適用分のみ)を全額市で負担するというものです。この取り組みについてのお考えをお聞かせください。あてはまる番号1つに「○」を付けてください。



Q3 Q2で「①対象年齢を拡大すべき」または「②対象年齢を絞るべき」を選択された方にお聞きします。対象年齢は何歳までが良いと思われますか。あてはまる番号1つに「○」をつけてください。また、その理由をお聞かせください。※現在は中学卒業（15

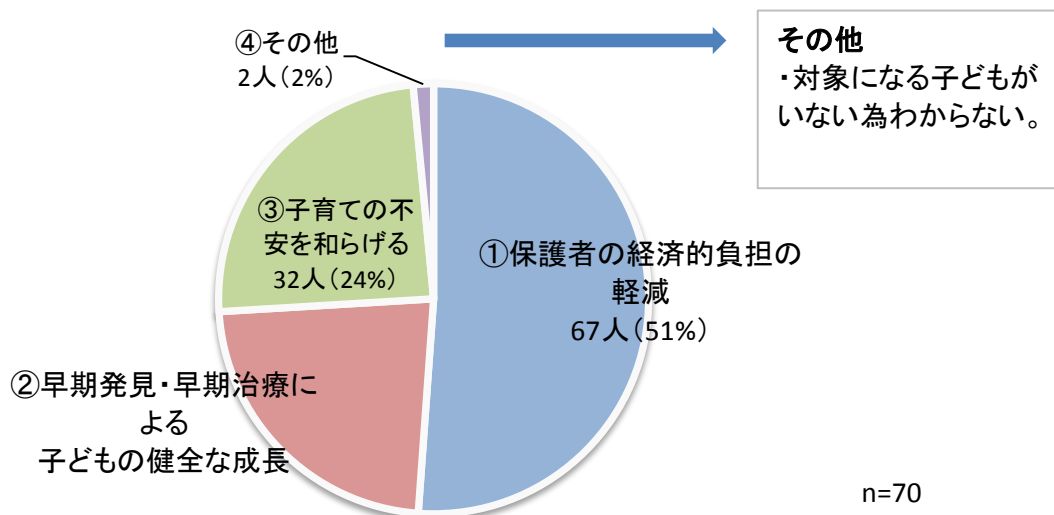


Q3 上記選択肢を選んだ理由

| NO.                 | 記述内容   |
|---------------------|--|
| <b>小学校入学(6歳)まで</b>  |  |
| 1                   | 入学すると、体力もついてくるので、それ以上は必要ない。  |
| <b>小学校卒業(12歳)まで</b> |  |
| 1                   | 中学校に入ってから、丈夫になってくるため。小学生くらいまではどのような症状なのか上手く言えないかもしれないため。   |
| 2                   | 中学生になれば、自分で痛い所ぐらいわかるはずである  |
| 3                   | 小学校ではどうしても親が見守らなければいけないけれど、中学生になれば自覚も目ざめるのではないかと   |
| 4                   | 自分の子供に関して言えば、小学校へ入るまでは何度となく病院通いをし、小学校在学中には徐々にその回数も減り、中学以降は部活によるけがくらいでほとんど通院が減った様に思います。中学校まで助成されているなら高校も同じだと思います。 |
| 5                   | 子育て促進の制度として、同制度は効果的だと思うが、中学生まで対象としなくていいと感じるため  |
| <b>高校卒業(18歳)まで</b>  |  |
| 1                   | 成人までは何とかしてほしい。中学校卒業後、就職した場合は対象外でもいいと思います。  |
| 2                   | 年齢が高くなるとお金の負担が大きいので少しでも医療費を安くしてほしい   |
| 3                   | 学費負担と医療費負担が重なって。きびしくなる為  |
| 4                   | 医療費の無償化によって、少子化対策や定住化対策につながると思う。今のままでは人口が5人を割り、どんどん子どもの数が減っていく。  |
| 5                   | 高校生まではまだ子供なので。卒業後はなしでいいと思う。  |
| 6                   | 高校卒業までは、中学生と同様な部活、通学の際のケガ、病気等おこりえる。大人になるにつれ免疫も強くなるが、人との接触する機会が増えるので病気をもらいやすいのでは。せめてインフルエンザ等の助成を考えて頂きたい。          |
| 7                   | 15歳位でちょうど良いと思う。  |
| 8                   | 高校までみて頂けると、非常に助かるため。   |

| NO.          | 記 述 内 容  |
|--------------|--|
| 高校卒業(18歳) まで |  |
| 9            | 就労できる年齢であっても、法的には未成年。勤務形態も限られる中で、自己負担は妥当ではない。又、身体的にも成長期であり、より丁寧に医療にあたるべき年代だから。   |
| 10           | 高校生の間は部活とかで、ケガをよくするから。   |
| 11           | 高校卒業までは大半の子供が親の手元に居るため、高校在学中も助成を受けられると助かると思う。                                    |
| 12           | 高校生も中学生と同じように部活動をしているし、同じように取り組んでいるから。   |
| 13           | 子供というのは高校生も入ると考えたから。   |
| 14           | 高校卒業までは保護者の経済的な負担が大きい。(大学進学のための準備やクラブ活動等)  |
| 15           | 経済的に困っている家庭の園児の健康をサポート、その為の拡大、年齢を18才まで   |
| 16           | 中学校までが義務教育を位置付けられているが、実質は、殆ど高校まで進学している状況から、高校卒業まで拡大しても公平な取扱いとなり、子を持つ親の負担軽減が図られる。 |
| 17           | 親が子供が成長するごとに高校、大学などの学費を負担している。大きくなるにつれてかかってくる費用」は幼少時より莫大なものになってくる。               |
| 18           | 義務教育中よりも高校生の方が何かと費用がかかるので  |
| その他          |  |
| 1            | 70代付近は現役で働いている方が多い   |

Q4 Q2で「①～③」を選択された方にお聞きします。子どもの医療費助成はどのような点で役に立っていますか。あてはまる番号に「○」をつけてください。(複数回答可)



Q5 Q2で「④よくない取組みだと思う」を選択された方にお聞きします。この取組みについて、良くない取組みだと思われたのはなぜですか。ご自由にご記入ください。

| NO. | 記述内容   |
|-----|--|
| 1   | <p>子どもの様子や体調などを毎日見ていたら子供の変化に気づくと思うし、体調をくずしかけた時の対応などから親子が学ぶ事が多いが、窓口負担を市で負担する事で、病院へ行けば良いという思いが強くないだろうかという心配がある。又、親は子どもの為に汗かいて働き、その収入で楽しい事や病気になった時などのお金を出す(支払う)のはある意味生きがいでもある。高額医療や他の制度を利用すれば、多額の支出はカバーできないだろうか、学校等のケガは団体保険での補助もある。年齢制限が高すぎると思う。中学生になったら自分の体は自分で守ったりできる知恵を子ども自身が身に付けて欲しい。</p> |

Q6 高島市では、今後もこの医療費助成制度を引き続き運営していきたいと考えています。そこで、保護者の方への「適切な医療機関の受信」や「お子様の健康維持」などの啓発を進めるに当たり、効果的な場面や方法、ご意見などがあればご記入ください。

| 分野  | 記述内容   |
|---|--|
| 広報活動  | ハガキ  |
|   | TwitterなどのSNS  |
|   | 防災無線で情報を発信する。教育現場から保護者への呼びかけ等  |
|   | 内科医や歯科医に出前授業をしてもらってはどうか。むやみに病院に行けばいいのではなく、日頃の生活上の注意点などを保護者に対しても講義してもらう。  |
|   | 全家庭に出むくなど徹底した医療指導  |
|   | ・広報”たかしま”での啓発 ・子供会、PTAでの周知、啓発  |
|   | 医療機関(医院、病院など)での手続きの簡素化、学校での広報活動(医療費助成制度)「広報たかしま」、「しふくのふくし」などでの啓発や手続きの仕方などで知らせる。医療費助成制度で保護者としてどんなメリットがあるかを知らせる。 |
|   | 基本的に人間の体は、抗生物質などの薬をすぐに服用してしまうと副作用や耐性菌などもあるため、すぐに受診、やたら受診が良いのではないと、医学的な事を広報などで伝える。                              |
|   | 情報弱者にとっても、郵便での情報提供は有効だと思います。年に一度の葉書だけでなく、もっと短期間での呼びかけ、チラシ配布でこれらの手段があるという事を、目に留めおいてもらう。                         |
|   | 広報などにのせる！  |
|   | 制度がある事を分かりやすく病院のポスターなどで強調した方がよいと思います。そういう制度があるという事を子供がいない世代でも分かるように  |
|   | 先の市の広報に関するアンケート結果より防災行政無線、広報誌を活用されればよいと思います。加えて医療機関でのポスター掲示に協力を求めるのも効果があると思います。                                |
|   | 保健センターや役場に大々的にポスターをはるなどをしたほうがよいです。個人病院にも、はらせてもらえるとよいと思います。   |
|   | 市の広報や防災無線での告知  |
|   | 「広報たかしま」などで文面でお知らせするのが良いと思います。   |
|   | 子供の健康維持についてのポスターの掲示と無線放送での啓発運動   |
| 保育所・幼稚園・小学校・中学校からお知らせの紙(書類)を配ってもらう。   |  |
| 乳幼児のお子様の保護者の方へは、健診に来られる時が一番良いのではと思います。学校に通っておられるお子様には、参観の時が効果的ではと思います。          |  |
| 健診や予防接種の時に、保健センターや病院で今流行している病気などを知らせるチラシなどをもらえると、こんな症状が出た時、受診しようというのが分かりやすいと思う。 |  |

| 分野      | 記 述 内 容  |
|---------|--|
| 広報活動    | <p>「適切な医療機関の受診」の意味するところが、「多重、頻回受診の抑制」なら例えば1か月の全額負担回数や負担額に制限を設けてはどうか？他方例えば風邪(程度)ならば市民病院を受診せずに開業医を受診しましょうという意味なら広報誌への掲載、保育や学校でのチラシの配布、国保や社保の受診履歴書(確か各家庭に送付されてくる)に掲載する等。健康維持については学校医、歯科医、薬剤師、保健師による学校での講演等で啓発する。(「適切な医療機関の受診」の意味が漠然とし過ぎている感があります)</p>   |
| 健康維持    | <p>医療費助成も必要ではあるが、全て税金で負担してもらっている事に認識をもってもらう事が必要。病気にならない為の体力づくり等を市が積極的に行ってはどうか。</p> <p>家庭ではもちろんですが、小学校や中学校でも子供の健康維持には積極的に取り組んでいただきたい。</p> <p>健康維持について学校でバランスのよい食事や衛生面の指導を行う。</p> <p>ひとり親家庭での子供の健康維持 地域・学校での気くばりが必要ではないか。ひとり親家庭だけでなく地域全体で子供を育てる事が必要。</p> <p>まずは家庭内での健康維持に努めるべきだと思う。朝食を抜かないとか、バランスのある食事をとるとか、軽い運動をすとか、家庭でのコミュニケーションも大事だと思う。</p> <p>子供は市の宝。子育ては市で育てるという意識をお互いもつべきであります。</p> <p>保育園や学校等での健診で子供の健康維持を保つために役立っている。引き続き行ってほしいと思う。</p> <p>日々子どもたちの様子に気も目も配っていると、体調の変化は予測できる。又、できる目を親は持って欲しいと思う。朝食、夕食を共にしていれば、食欲や顔色が確認できる。生活の中心である食事タイムの安定が大切だと思う。</p> |
| 早期受診・相談 | <p>軽度の体調の悪い場合は保護者の判断によって差がありますが、できれば様子を見て医療機関に行くような方策も必要と思う。</p> <p>費用負担がない分早期に病院等に対応する事が出来る。重篤する前に受診する事により大きな費用(税)を負担する事が軽減出来るのではないのでしょうか。</p> <p>健康について気になる事や心配な事が有った時に気軽に受診出来る事が、重要だと思われるので、受診するかどうかの判断は個人に任せる他ないと思います。特に乳幼児については素人判断は難しいと思います。不適切な受診があった場合に、個人的に指導するしか無い様に思います。受診する前に症状を相談出来る仕組みがあれば良いと思います。(コンシェルジュの様な・・・24時間が対応)</p> <p>病気の早期発見には人間ドックが有効とっております。高校卒業までの期間に検診等は行っていると思われませんが、簡易ドックを年1回あるいは3年1回程度の頻度で実施すれば、子供が35才以上になった時の人間ドック受診が啓蒙され、成人病予防・病気の早期発見による保険料負担軽減に繋がるのではと思います。</p> <p>医療機関にかかる際、どのくらいの状態で受診した方がよいのか、ある程度の指針があれば良い。</p>      |
| その他     | <p>中学生まで医療費が無料なら病院にも行きやすいと思います。お金のかからないのは親にとっても楽かと思えます。</p> <p>医療側のフットワーク的な理解も必要と思う。人材育成は難しいとしても、適切な人材の確保を望みます。</p> <p>このままで良いと思う。</p> <p>わからない</p> <p>対象家庭の把握と医療機関への周知徹底が必要です。</p> <p>少子化対策をもっと推し進めるべき 財源は職員の削減、管理職の手当を見直す！</p> <p>医療費助成制度が末永く続くことをお祈り申し上げます。</p>   |

Q7 その他、全体を通してお気づきになった点など、自由にご記入ください。

| NO. | 記述内容  |
|-----|---|
| 1   | 15歳までの医療費助成は子供3人いる私個人としては、経済的に大変助かっている。ありがたいです。高島市の子育てしやすい街としてのイメージとしても、良いアピールになると思う。   |
| 2   | 助成制度は良い制度だと思います。子供が成長しやすい環境、安心して暮らしやすい町作りを期待しています。  |
| 3   | 県内トップレベルの助成内容とあるが、滋賀県なんかでくらべてもあんまり意味がないと思う。国の中でくらべてトップレベルなら人口もふえると思う  |
| 4   | 必要以上の医療費機関への受診は控える  |
| 5   | 親が過保護の為に全体的に見ても体力、学力共に下位に甘んじている。先づ若い親の教育からが大事であると思います。  |
| 6   | 行政としても保護者としての義務をしっかりとってもらえる様にしないといけないと思う。(保育料、給食費、税金等)の滞納の対策！！  |
| 7   | 私たちの時代はなく、たいへんでした。よく子どもは病気をします。引き続き運営していただきたいです。ひとりっ子でなく、二人、三人と産んでみようかと若い人ががんばってくれるかも？ね。ちょっとしたこと心配事を相談できる場所はあるのですか？   |
| 8   | 市すべての助成に対して、してもらって当たり前と思っている人が多い気がする。助成してもらって、それで働かず遊び惚ける人がいるので、管理体制を必要だと思う。  |
| 9   | 今の子どもは国や地方の借金の返済や年金の負担が大きくなる。せめて高校卒業まで医療費や学費の支援をしてほしい。  |
| 10  | 医療費助成とは関係ないですが、高島病院産婦人科が来年3月で閉鎖と聞きました。大変残念ですし、今後の高島市への不安も大きいです。子供のため、高島市の未来の為、今一度考えて頂きたいです。   |
| 11  | 「子供の医療費助成」を「乳幼児」助成と「子供医療」助成を分けずに一本化して同率の補助が受けられるようにするのが良い。  |
| 12  | 高島市が、財政難にならないのなら、このままでいいと思います。  |
| 13  | 近隣の子供たちへの行動は意外に気にしてたりします。自治会活動で、1人暮らし老人の見回りをしているように、幼い子供には特に注意をして目を向ける日常にしたいものです。   |
| 14  | 高齢化が進み、若い方たちが少なくなってきた高島市ですが、これらの制度がますます充実し、若い世代の方たちが住みやすい街になればと思います。  |
| 15  | 少子化による人口減少を抑える目的であれば、高島市以外からの流入転入者を増やすために、大津市市内の住人にも、周知できる方法があるといいです。   |
| 16  | 小さい子ども0才児～10才児までは、医療費の助成は助かったが、10才以上になったら病気というよりケガが多かった。病気に対する自分の体を守る方法は小さい時からの習慣(積み重ね)が必要になるので、親は子どもにすり込んでほしい。そして、18才ぐらいにはしっかりと自分の体を自分で守れる子に育ててほしい(自律できる子) |
| 17  | 「適切な受診」は難しい問題だと思います。自己責任という所に落ち着く様に思います。  |
| 18  | 子供が病気にかかり長引くと親や家族は本当に不安になります。医療費助成制度があることで誰でも医療機関に受診することができて重病を未然に防ぐことにもなります。本当にありがたい制度です。  |
| 19  | 若い世帯と同居してませんので「参考資料」で子どもの医療費助成のことがよくわかりました。   |
| 20  | 子供の健康について学校との連携も大切だと思います。   |
| 21  | 高島市の少子化がかなり進んでいて、市が色々行っていると聞いていたが、詳しくは知らなかったの、医療費の助成まで行っていると知り驚きました。  |
| 22  | 参考資料に「高島市は県内でトップレベルの助成内容である」とのことで、これからも維持していただきたいと思います。   |
| 23  | 私も2人の子供を育ててきましたが、子供は色々な病気になりやすく、やはり経済的に負担があれば安心できると思います。このような制度はよいことだと思います。   |

| NO. | 記 述 内 容  |
|-----|--|
| 24  | 自身に子供がいないので、親の意見も入っていると思うが、子供が小さいから経済的な負担が大きくなるというわけではないように思う。子供の成長につれて親が負担する金額が大きくなると思うので、その点も助成制度に反映してもらえれば良いかと思う。   |
| 25  | 現在中学生までの市の全額負担での医療費を負担してもらっているのは、親としては大変ありがたいです。私は医療関係の仕事で大津市や守山市に行くことがあるのですが、守山市は小学校入学まで、大津市は10歳までとなっていますので、身にしみてありがたさがわかります。ただし市内だけで居住、就職していると、この制度のありがたさが身を以ってわからないだろうとも思います。子供も含めた市民が、子ども医療費は「無料」ではなく、「市が全額負担している」という感覚を持つことが大切だと思います。 |
| 26  | 6歳と2歳の子供をもつ子育て世代です。子供の医療費助成制度はとてもありがたく、本当に助かります。熱やケガをする事も多いので、医療費助成がある事で、安心して病院に通院でき親や子供の不安を取り除けるので、本当に本当にありがたいです。   |
| 27  | 今後もこの医療費制度が引き続き運営されることを心よりお喜び申し上げます。   |